

平成30年9月定例市議会

行政報告要旨

総社市

平成30年7月 西日本豪雨災害により犠牲となられました方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様方に心からお見舞い申し上げます。

災害から約2ヶ月が経過し、酷暑の夏が過ぎようとしています。この間、皆様から温かい激励と、心のこもったご支援をいただきました。議員の皆様にも、連日連夜、ご活躍いただいておりますこと、感謝の念にたえません。改めてすべての皆様方に、衷心よりお礼申し上げます。そのような大変お忙しい中、9月定例会市議会を招集いたしましたところ、万障お繰り合わせのうえ、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

今なお、被災された多くの方々が苦しみ、悩み、不自由な生活を強いられておられます。少しでも早く不安を払拭し、元の生活に戻られるよう、今議会も精一杯頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

1) 未曾有の大災害発生

まず、平成で最悪の豪雨といわれる、大災害の経過について申し上げます。7月5日から活発な梅雨前線が停滞し、昭和中学校に設置してある雨量計では、降り始めから、累計336ミリに及びました。また、高梁川上流にある、4つのダムの放流量は、最大毎秒3,732トンに至るなど、近年、稀にみる数値を記録いたしました。

本市では、7月6日9時45分に、災害対策本部を設置し、非常配置体制をとりました。辺りが暗くなるにつれ、雨は激しさを増し、高梁川の日羽観測所における水位は、19時40分、8.95mと、氾濫注意水位を超過いたしました。21時には、避難判断水位を超える10.74mを観測、21時30分、氾濫危険水位の11mを超える11.2mを記録いたしました。21時35分には、「生命に重大な危険が差し迫った異常事態にある」として、気象庁から大雨特別警報が発令されました。甚大な危険が迫る中、7日午前0時には、^{けいかくこうすい}計画高水位である12.94mを超える13.07m、0時30分には13.12mを観測いたしました。

以降は「測定不能」となり、高梁川の決壊という、最悪の事態を想定して行動いたしました。

本市では、早い段階から、「命を守るための行動」として避難を呼びかけてまいりました。22時15分には、市内全域に避難指示を発令、緊急速報メールや、緊急告知FMラジオ「こくっち」、メールマガジン、私自身のツイッターなどによる情報発信を行いました。また、コミュニティ地域づくり協議会を、緊急招集いたしました。集まってくださった10協議会の方に、私から現状を報告し、各戸を回り、住民の方を避難させてほしいと、お願いいたしました。あわせて、議員の皆様や、自主防災組織、地区役員の方々に連絡し、住民の方への避難を呼びかけていただきました。この結果、39ヵ所の避難所へ7,291人の方が避難されました。

また、23時35分頃、下原地区にあるアルミニウム工場の爆発があり、二次爆発の恐れがあったため、下原地区に、即座にバスを用意し、きびじアリーナへ、避難していただきました。この爆発により、下原全域をはじめ周辺地域にまで

被害が及びました。しかし、死者を出すことなく、安否確認まで迅速に行えたことは、日頃から、積極的に、避難訓練が行われるなど、下原地区の方の、防災意識の高さと、早めの避難指示が功を奏した結果だと考えております。

そして、この間、災害対策本部に設置した5本の電話は、鳴り止まず、冠水した道路の交通規制や、避難所設営など、全職員が夜を徹して対応にあたりました。一方、市内各地で、多くの方が浸水により孤立し、消防本部には、救助を求める声が相次ぎました。急激に増水した高梁川では、20人が行方不明との情報が錯綜する中、竹やぶにしがみついて助かった方や、酒津まで流され、救助された消防隊員などの命が救われました。しかしながら、水難救助活動は難航を極め、決死の救助活動の甲斐なく、市内で、4名の方が尊い命をおとされました。改めて、ご冥福をお祈りいたします。

災害が起こったときの命綱となる、情報伝達手段のひとつとして、今回、私個人のツイッターを活用し、高梁川の水位や、避難情報など、分刻みで発信し続けてまいりました。そして、7日午後4時、ツイッターに、ある高校生から

「私たち高校生に何かできることはありませんか？」との、申し出がございました。私はすぐに、「市役所に来て、ボランティアとして市民を助けて。」と返信いたしました。次の日の朝8時、対策本部の窓から、久しぶりに朝日を浴びた外を見ると、約千人の高校生が、拡散されたツイッターを見て、集まってくださっていました。危険を顧みず、泥かきをしてくださる若者たちの、ひたむきな姿に感動し、総社の将来を彼らに託すべきだと実感いたしました。

2) 第1クール（災害発生から臨時議会（7/20）まで）

すばやい行動力の若者たちに負けないよう、我々も、総社市のために、丁寧な対応を心がけながら、最速のスピードで、がむしゃらにがんばってまいりました。

（出張所の開設）

7月13日には、特に被害の大きかった下原、及び昭和地区に出張所を開設し、それぞれ職員3名が常駐いたしました。この出張所が機動力となり、現地での、迅速な支援体制をとることができております。引続き、被災された方に身近

な、きめの細かい支援に努めてまいります。

(自治体からの支援)

全力で復旧にあたっている総社市をサポートするために、17自治体、延べ2,556名の職員が全国から駆けつけてくださいました。宮城県仙台市、及び新潟市が中心となり、神奈川県伊勢原市、大和市、東京都杉並区、新潟県小千谷市、北海道なよろ名寄市、三重県鈴鹿市、大阪府松原市、島根県益田市、山口市、香川県丸亀市、徳島県みなみ美波町、福岡県朝倉市、大分県ぶんごおおの豊後大野市、熊本県益城町、吉備中央町の方々が、罹災証明・避難所運営・消毒・ガレキ撤去などにご尽力いただきました。

また、医療衛生班のサポートに、和歌山県、鳥取県、福岡県、熊本県、和歌山市、鳥取市、倉吉市、ほうき伯耆町から、8自治体、190名の職員が避難所を巡回し、相談業務などに従事してくださいました。さらに、認定特定非営利活動法人AMD Aも、協力団体をあわせて144名が、避難所での医療支援、熱中症対策などを行ってくださいました。

住まいの応援チームには、国土交通省、福島県、及び兵庫県
の建築職員がバックアップしてくださっております。

全国の自治体から、水、土のう袋、毛布、ブルーシート、
テント等々、数多くの物資や支援金もいただいております。
総社市はこれまで、議会からご承認いただいた「大規模災害
被災地支援に関する条例」などに基づき、全国の被災地に、
真っ先に駆けつけ、困っている人に手を差し伸べてまいりま
した。これまで支援に駆けつけた、福井県勝山市、山口市、
朝倉市、益城町などが、今回、いち早く職員を派遣し、物資
や支援金を届けてくださいました。また、防災協定を始め、
様々な協定などで連携している、仙台市、福島県相馬市、
伊勢原市、静岡県浜松市、長野県茅野市、新潟県十日町市、
京都府与謝野町、大阪府和泉市、長崎県対馬市からもご支援
いただいております。「支援する能力は、同時に支援を受け
る能力を強くする」、すなわち「支援力は受援力である」
ことを実感いたしました。なお、相馬市からいただいた寄附
金については、「総社市教育復興子育て基金」として、被災
した子どもたちのために、使わせていただきたいと思います。

(一般からの支援)

高校生の呼びかけから始まったボランティアは、昨日までに延べ 1万4,148人となり、うだるような猛暑の中、総社市のために汗を流してくださっています。また、シンガーソングライターのさだまさしさんが設立された「風に立つライオン基金」からの支援を受け、高校生・大学生のボランティアの方々が、被災した子どもたちの学習・遊びの居場所「みんなのライオンカフェ」の運営にも携わってくださっています。さらに、音楽プロデューサーの小林武史さん、ロックバンドMr. Childrenのボーカル桜井和寿さん、そして、音楽家の坂本龍一さんが、拠出した資金を基に設立された「^{エービーバンク}a p b a n k」が、総社カルチャーセンターを拠点に泊り込み、総社市や、真備町でのボランティア活動に、ご尽力いただいています。

企業や、個人の皆様からいただいている善意の品々につきましては、避難所でお配りするとともに、7月11日から、高校生ボランティアが中心となり、市役所車庫において、フリーマーケット方式で、被災された方にお渡ししており

ます。この方式は、新しい支援の形として大きな反響があり、連日千人を超える方々が受取りに来られるなど、大変ご好評いただいております。

全国からいただいた義援金・支援金は、9月2日現在、4億9,927万3,538円にのぼります。また、対馬市、和泉市、浜松市からの応援もいただき、返礼品のない災害支援ふるさと納税を募ったところ、これまでに2,021万9,426円のご寄附を頂戴しております。ふるさと納税における平成30年産米の申込も、2万1,516俵と、平成29年産米1年間の実績値（21,025俵）を上回っております。お預かりした総額 5億1,949万2,964円は、さらに10万円を、「総社市生活スタート資金」として、被災された方に、早急にお届けしたいと思っております。

今回の災害で、自然の脅威をみせつけられましたが、あらゆる方面からのご支援に、日々パワーをいただき、勇気づけられている次第です。本当にありがとうございます。

3) 第2クール（7/21から仮設住宅入居まで）

次に、7月臨時議会において、ご承認いただいた17億2千万円の補正予算などをもとに、支援を加速していく期間を、第2クールとし、総社流の独自施策を実行しております。

（支援金・見舞金）

まず、当座に必要となるお金として、5万円の支援金制度を創設し、議決をいただいた翌日から、直接、配布を始めました。

また、総社流の見舞金制度として、被害の程度により、100万円・50万円・20万円を振込ませていただいております。9月2日現在、5万円974件、見舞金については、498件 総額 3億 940万円となり、ほぼ全ての方へお渡しできていると考えております。

（避難所運営）

もっとも多い時で、39ヶ所7,291人の方を受入れていた避難所ですが、被災者の健康を第一に考え、早期にエアコンのある公民館などへ移動していただきました。また、ペット同伴避難所を開設したことで、これまで、避難を躊躇

されていた方の避難を促すことができました。災害に遭ったのはペットも同じであり、ペットも家族の一員です。このことから、ペット同伴避難所設置の義務化を、国へ働きかけていきたいと思います。

(真備町支援)

さらに、我々が被害を受けていても、困っている人に手を差し伸べる自治体でありたいとの思いから、当初から、市内の避難所へ、真備町の方を受入れてまいりました。9月2日現在、総社市60人，真備町126人，計186人の方が、市内6カ所の避難所で生活しておられます。また、延べ929人の方々が、総社市から真備町へ、ボランティアに入られています。これからも、真備町の方々も、しっかりと抱きかかえていく決意でございます。

(仮設住宅の進捗状況)

避難所などでの不自由な生活から、1日も早く落ち着いた生活を取り戻すために、仮設住宅を、急ピッチで建設しております。福島県で活躍した木造の仮設住宅は、プライバシーに配慮した住居で、先日行われた内覧会でも、木のぬくも

りが感じられるなどと、ご好評いただきました。秦に建設中の西仮設住宅と、美袋の昭和仮設住宅に、計44世帯が入居される予定であり、敷地内には、憩いの場となる集会所を設置することとしております。西仮設住宅へは9月16日頃、昭和仮設住宅へは10月上旬までに、順次、入居していただく予定としております。

また、民間のアパートを活用した「みなし仮設住宅」へ25世帯が入居されています。^{ほか}外にも、上原にある、旧雇用促進住宅の空室を利用した「上原仮設住宅」や、岡山県から提供の県営住宅、及び県教職員住宅に、計33世帯が契約、入居されております。

4) 第3クール（仮設住宅入居から復興まで）

第1、第2クールについて、最速スピードで、被災された方に寄り添った支援を講じてまいりました。第3クールは、補償などの問題を解決し、復興に向けて取組んでいかなければなりません。このことから、8月31日をもって災害対策本部を閉鎖し、9月1日から「復興対策本部」を立ち上げ、

復興に特化しながら、地域の実情に即した支援を行うことといたしました。

(国への要望)

私はこれまで、国のルールと現実との乖離を訴えてまいりました。8月24日には上京し、加藤厚生労働大臣、小此木^{おこのぎ}防災担当大臣、齋藤農林水産大臣、中川環境大臣に、直接お会いして、要望してまいりました。4大臣の面会に加え、内閣府防災担当の責任者、海堀政策統括官にも、罹災認定において、アルミニウム工場の爆発被害も考慮するよう、直訴してまいりました。今後、大変厳しい折衝が予想されますが、継続的に訴えてまいります。

(農家及び中小企業支援)

被害を受けた農家への補償制度として、農業用機械や施設の再建・修繕に要する経費について、農家の負担を1割とする補助事業を策定し、今議会に補正予算案を計上しております。また、被災された中小企業への支援策としては、事業所負担が4分の1となるグループ補助金や、移転支援、雇用調整金に係る補助など、総社流の支援制度を策定し、地域

経済の復興を後押ししてまいります。

(家屋解体)

農家支援や家屋解体など、生活再建を円滑に進めるため、8月28日、市役所にワンストップ復興窓口を開設いたしました。家屋解体については、岡山県から単価が示され、関係機関との協議が整い次第、全額公費により実施してまいります。

(心のケア)

復興に関する補償などとともに、常に弱い立場にある人のことを考えた支援を行ってまいります。孤立防止のための見守りや、日常の相談・生活支援、住民同士の交流の機会の提供などに関する予算を本議会に上程しております。また、9月7日まで被災小中学校を中心に、仙台市から派遣された専門職員が、児童生徒の心のケアや、対応する教職員からの相談に応じてくださっております。

8月31日現在、総社市の人口は、6万8,969人で、過去最高を更新しております。人口増加の要因である、真備町を始めとする転入者の方々にも、傷ついた心のケアを、

一番に考え、立ち上がるためのお手伝いをしてまいります。

また、これまで頑張ってきている職員に対して、被災された方を最優先させることはもちろんですが、今後は心身ともに充分休養がとれるよう、健康管理にも配慮してまいります。

(市民へのお知らせ)

続きまして、復興に向けたチャリティーの催し物を4点、ご案内させていただきます。

(1) 若旦那(湘南乃風) 災害復興支援コンサート

本日18時30分から、総合福祉センター3階大会議室において、レゲエグループ「湘南乃風」のメンバー 若旦那さんによる災害復興支援コンサートを開催いたします。若旦那さんからの、復興に向けた熱いメッセージに、乞うご期待ください。

(2) 赤米フェスタ2018

9月16日、日曜日、赤米フェスタ2018を備中国分寺において開催いたします。今年は、西日本豪雨災害復興支援チャリティコンサートとし、入場券となる、てぬぐい1枚につき2,000円以上ご寄付いただき、復興に役立てたいと思います。相川七瀬さん、中村あゆみさん、はなわさんとともに、演歌界から初となる、坂本冬美さん、ギタリストで、日本遺産大使のマーティ・フリードマンさんなどをお迎えいたします。たくさんの方のご来場をお待ちしております。

(3) 有森裕子 チャリティー リレーマラソン

赤米フェスタの翌日、9月17日敬老の日には、マラソン五輪メダリストの有森裕子さんとともに、チャリティーリレーマラソンを開催いたします。9月12日午後5時までエントリーを受付けておりますので、ご家族、ご友人、お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

(4) さだまさし&鎌田實 チャリティーイベント

9月23日、日曜日には「風に立つライオン基金」主催のチャリティーイベントが開催されます。総社中学校体育館を舞台に、医師で作家の鎌田實さんによる、被災地で健康を守るための講演と、さだまさしさんのコンサートを開催いたします。また、ボランティアの方による、炊き出しのご提供もごございます。心に響くお話と、愛にあふれる歌声に、癒されてください。

以上、総社市の災害対応、そして復興に向けた取組みについて申し上げてまいりました。

今回の災害を通して、私はすべての職員に、被災地や避難所など、実際の現場を見るように申し伝えてまいりました。そこから地域力、人間力を学び、それが市民と接する態度などに表れ、今後の市政に生かされてくるものと確信しております。これからも総社市は、全力で市民を守ります。

そして災害に負けない、弱い立場にある人に優しい全国屈指の福祉文化先駆都市を実現させるため、大きくステップアップいたします。

議員の皆様方におかれましても、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。